

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》  
特別養護老人ホーム事業所サービス連絡会

開催日：令和3年11月17日（水）

時 間：10:00～11:30

場 所：阿南市役所 203 会議室

目 的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。  
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：10名

特別養護老人ホームヴィラ羽ノ浦	：施設長 久世 光洋
特別養護老人ホーム健祥会バイエルン	：総括・生活相談員 片山 美奈
特別養護老人ホームコスモスの里	：生活相談員 喜多 秀樹
特別養護老人ホーム緑風会ルネッサンス	：生活相談員 久間 千春
地域密着型特別養護老人ホーム双葉の丘	：生活相談員 南谷 ゆかり
地域共生推進課	：課長 日下 浩之
地域共生推進課	：主査 松崎 由美
地域共生推進課	：事務主任 織原 裕希
介護保険課	：主事 福島 康人
在宅医療・介護連携支援センター	：センター長 湯浅 祐司

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。  
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆新型コロナウイルス感染症に伴う事業所の取り組み

○面会について

- ・令和3年10月11日より再開している事業所が殆どであり、現在、面会は参加全施設が実施している。
- ・面会可能施設は1階での面会室等で面会。  
また、県外の面会者はワクチン接種や陰性証明があれば面会可能。

- ・ 飲食を伴う面会は禁止。
- ・ リモート面会を活用している。

⇒国の緊急事態制限や徳島県のアラートの状況によって対応をしていく。  
厚生労働省より、面会制限を解禁するように言われているので、施設で対策・対応をしっかりと行い入所者や家族の気持ちになって対応をしていく。

#### ○利用者の対応について

- ・ 入所者、利用者は怒りっぽくなっている現状がある。
- ・ ADLの低下というよりは、高齢化による重度化が進んでおりケアの対応が大変となっている。
- ・ 11月1日よりフロア毎のリハビリを解禁して集団でのリハビリを実施している。
- ・ 県外の家族と接触した利用者は原則、2週間の休みにしている。
- ・ ワクチン接種をしてから再開する利用者もおられた。
- ・ 当日の利用キャンセル数が増加している。

⇒入所者・利用者の気持ちになってのケアに努める。また、外出行事等を再開している施設もあるので、各施設で検討をしていく。

#### ◆介護職員等の職員不足に対する取り組み

##### ○現在の職員数について

- ・ 適正配置基準はクリアできているが、少ない職員数である。
- ・ 高齢化やパートが多く、一部の職員に負担がある。
- ・ 職員数は安定している。
- ・ 募集をしても来ない。

##### ○職員採用について

- ・ ホームページ用の職員採用ページを開設して、採用に繋げている。  
⇒HPを見てここで働きたいと思ったと採用の問い合わせがある。
- ・ E P A人材の雇用。
- ・ 技能実習生の受入れ。
- ・ 介護職員の業務内容を細かくしてのポイント採用。

⇒職員採用はどの施設も悩み事であるが、採用に繋がった事例を共有することで、施設で取り組むべき事項も明確になった。今後も情報交換を行い、人材確保に繋げていく。

#### ◆入所者確保に対する取り組み

- ・ 医療関係からの紹介が多いが、重度化しており施設の医療知識のアップが必要。
- ・ 新型コロナウイルス感染症によりショートステイには多少影響はあった

が、法人内での紹介等もあり利用者はいる。

- ・施設にデイサービスを併設しているが、在宅サービスの利用者が減少している。
- ⇒在宅医療・介護連携支援センター開催の研修や阿南市よりの研修に積極的に参加して、スキルアップをしていく。

#### (5)組織運営について

阿南市内の特別養護老人ホーム部会の立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長として特別養護老人ホームヴィラ羽ノ浦の久世光洋施設長が推薦により決定。

今後は、部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

#### 【総評】

名前は知っているが顔が分からない、悩みや不安があった職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、入所者が施設でゆったりとした生活が長く継続できるよう、専門性を高める良い連絡会となった。

医療と介護の連携で、スキルアップが課題との意見があったので、当センターや阿南市より研修案内や情報提供をし、活用して頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていき提案し、参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

#### 【連絡会風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司